

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2016年4月）

目 次

内 政

- ◆ロマンコミュニティ特使の辞任 2
- ◆フィツォ首相の緊急入院 2
- ◆国会における政権綱領の承認 2

外 政

- ◆スロバキア・ノルウェー外相会談 2
- ◆ライチャーク外相のギリシャ訪問 3
- ◆ライチャーク外相のドイツ訪問 3
- ◆G L O B S E C 2 0 1 6 の開催 3
- ◆キスカ大統領のパリ協定署名式出席 3

社 会

- ◆スロバキア人は親欧州あるいは親ロシア？ 4

経 済

- ◆ポフニツェ原子炉増設に関する環境影響評価 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（4月） 4

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆ロマンコミュニティ特使の辞任（４日）

約４年間、ロマンコミュニティ特使を務めたポラーク氏が辞任する。与党「架け橋（Most-Hid）」が後任の推薦を望んでいることを、同党のコヴァーチ広報担当及びロマンコミュニティ特使の所属する内務省が明らかにした。７日には、メディアが有力候補として名前を挙げていたMost-Hidの元顧問のラヴァス氏が新しいロマンコミュニティ特使に任命された。ラヴァス氏はロマン人ではなく、ハンガリー系出身者である。

◆フィツォ首相の緊急入院（１４日）

フィツォ首相は、心臓疾患と見られる体調不良により国立循環器疾患研究所に緊急入院した。同首相は１４日に予定していたチェコ公式訪問を取り止めた他、１５日のGLOBSEC2016の開会式も欠席した。その後も経過観察のために病院に留まることとなり、翌週のハンガリー及びポーランド訪問も取り止めた。診断の結果、２２日には同病院において心臓外科手術を受けた。（５月１日に退院し、自宅療養に入ったことをソーシャルネットワーク上で公表した。当面はリハビリが続けられる見込み）

◆国会における政権綱領の承認（２６日）

連立政権の政策綱領は１３日に閣議決定され、１９日から国会本会議における審議が開始されていた。２６日に出席議員１４２名（定数１５０名）のうち７９名の賛成により連立政権の政策綱領は承認された。政策綱領の承認をもって、連立政権が正式に国会の信任を得たこととなる。綱領の基本指針は、「社会的、政治的安定の強化」、「外部環境の変化に対する柔軟な対応」、「経済、社会、環境分野での発展に向けた取り組みの継続」、「経済的、社会的、地域的な連帯の深化」、「国家の役割と公益保護の強化」の５つである。

外 政

◆スロバキア・ノルウェー外相会談（１日）

ライチャーク外務・欧州問題相は、当地を訪問したブレンデ・ノルウェー外相との会談において、政治対話、経済協力等の良好な二国間関係について協議すると共に、本年後半のスロバキアのEU議長国就任に関する説明を行った。両外相はエネルギー安全保障、テロとの戦い、移民問題、ウクライナ情勢及び西バルカン情勢についても議論した。また、ライチャーク外相は、１５日に当地を訪問したアスパーケル・ノルウェー欧州経済領域兼欧州問題相とEU・ノルウェー関係の強化について議論した。

◆ライチャーク外相のギリシャ訪問（6日）

ライチャーク外相はギリシャを実務訪問し、パヴロプロス・ギリシャ大統領及びコジラス・ギリシャ外相と個別に会談を行った。今次訪問は、ライチャーク外相の再任後、最初の外国訪問となった。両会談の主要テーマは移民問題であった。ギリシャは、移民のトルコへの送還に関するEU・トルコの協定の実施を含めた全体の状況を注視している。ライチャーク外相は、欧州及び世界情勢に加えて、バルカンや中東情勢についても協議を行った。ライチャーク外相はコジラス外相に対し、スロバキアへの公式訪問を招請した。

◆ライチャーク外相のドイツ訪問（7日）

ライチャーク外相はベルリンを訪問し、シュタインマイヤー独外相と会談を行った。ライチャーク外相は、スロバキアがEUの責任ある加盟国であり、同様の責任を持って、EU議長国の役割を果たしていくと述べた。同外相はシュタインマイヤー外相に対し、EU議長国における優先事項を説明すると共に、スロバキアのEU議長国就任が、ドイツとの更なる緊密な交流及び協力の機会になることを指摘した。ライチャーク外相は、「良好な二国間関係は、欧州内での協力を非常に適した条件を作り出している。ドイツは、全欧州的な解決を強かに牽引する信頼の置けるパートナーである」と述べると共に、国際情勢におけるドイツの前向きな役割を評価した。

◆GLOBSEC 2016の開催（15－17日）

GLOBSECは、外交・安全保障政策に関する国際会議としてブラチスラバにおいて毎年開催され、今回が11回目であった。欧州を中心とする世界各国から多数の政府要人、政治家、専門家、ジャーナリスト等が参加し、キスカ大統領、V4外相、ライエン独国防相、オルブライト元米国務長官、欧州各国の大統領、外相、国防相等が出席した他、日本からも武藤外務副大臣が出席した。会議では、英国のEU離脱問題、難民問題、ウクライナ情勢、シリア情勢、EU・ロシア関係、ワルシャワでのNATOサミットに向けた準備等が議論の中心となった。

◆キスカ大統領のパリ協定署名式出席（22日）

キスカ大統領はパリ協定への署名を行った。気候変動に関する新たな国際的枠組は、人類による低炭素成長への移行過程における協議の前進を示している。協定はキスカ大統領の署名の後、スロバキア政府による批准手続へと移る。キスカ大統領は署名式の演説の中で、EU加盟国としてのスロバキアの公約が2030年までに、二酸化炭素排出量を1990年との比較で40%削減するこ

とであると述べると共に、「今のところ、スロバキアは目標達成に向けて十分な成果を挙げる同時に、競争力のある環境と輸出型経済を基盤とした力強い経済成長を持続させている」と強調した。

社 会

◆スロバキア人は親欧州あるいは親ロシア？（21日付プラウダ紙）

スロバキア人は強力な親欧州派でも親ロシア派でもない。国民の多くは西側の文化と地政学上のくびきとの間で明確な立場を示していない。世論調査会社 Focus社が1月31日から2月7日までに1000人を対象に調査を行った。調査結果によると、回答者の中で、23.1%は西側の国、12.3%は東側の国でありたいと考えている一方、51.8%の回答者は双方の中間にいたいと答えている。

経 済

◆ボフニツェ原子炉増設に関する環境影響評価（15日）

スロバキア原子力エネルギー社（JESS）は、環境省によるヤスロウスケー・ボフニツェ原発新規原子炉建設に係る環境影響評価（EIA）の結果について発表した。2013年に開始されたEIAの最終評価は、事業者、一般市民及び利害関係者の見解を検証する評価プロセスの結果に基づいて公表された。最終評価は、1700MWeの電力を生産する第3+世代の加圧水型原子炉1基の建設と稼働を承認している。原子炉の耐用年数は60年が想定されている。近隣諸国の見解として、チェコ、ハンガリー及びポーランドはスロバキアの原子炉建設を問題視していない一方、反対意見の圧倒的大多数（1万1676件）がオーストリアからのものであり、ドイツからも反対意見（59件）があった。

◆スロバキア中央銀行月報（4月）

1. GDP

2月の売り上げ、鉱工業生産、輸出といったスロバキアの経済活動は、主に自動車産業の貢献によって成長を示したものの、各指標の伸びは2015年第4四半期の平均値より鈍化している。国内取引が概ね停滞する中、特に鉱工業が前期比1.6%増となった2月の総売上を支えた。鉱工業の中でも、自動車生産に加えて、電機や石油化学が好調であった。2月の鉱工業生産は前期比で1.1%増加した。電機及び自動車産業が成長に最も大きく寄与した。建設部門は予測通り前期比での伸びが鈍化した。特に、昨年、同部門の記録的な伸びに貢献した新規インフラ・プロジェクトに係る建設が減少した。

2. 雇用率及び賃金

2月の雇用率は前年同期比で2.3%上昇し（2015年第4四半期は平均2.2%上昇）、前月比では1.1%の上昇となった。2月の雇用率を通じて、鉱工業部門、特に自動車及び電機部門が雇用の伸びに最も大きく貢献していることが確認された。3月の登録ベースでの失業率は季節調整前で前月比0.2%低下して9.89%となった。2月の平均賃金の前年同期比での伸びは上昇基調を加速させ、前年同期比6.4%（1月は4.1%）となった。2月の平均名目賃金は840.5ユーロであった。

3. 物価

3月の前年同期比での消費者物価の下落は、-0.5%（2月は-0.3%）に達し、前月比では0.0%と停滞した。食料品価格の前年同期比での下落は更に進んだ。サービス価格は、雇用市場の基礎項目、特に賃金の前向きな動きにも関わらず、依然としてより急速な価格上昇の兆候を示していない。ブレント原油の急速な価格上昇は3月の燃料価格上昇をもたらした。原油価格の上昇にも関わらず、エネルギー価格は2016年全体を通して、前年同期比でのマイナスの動きが予測される。

4. 貿易

2月の製品輸出は前期比3.1%増となり、貿易相手国における成長鈍化予測の影響は今のところスロバキアの輸出動向には現れていない。これまでの貿易統計の数字は、2016年第1四半期の貿易が第1四半期予測を上回る結果となる可能性があることを示している。2月の輸出は前年同期比で6.7%増、輸入は7.8%増加した。2月の貿易黒字は3億1100万ユーロであった。

5. 2015年の財政赤字及び政府債務

スロバキアの2015年の財政赤字はGDP比3%、政府債務はGDP比52.9%であった。GDP比2.49%という当初の財政赤字目標を3億7800万ユーロ（GDP比0.5%）超過した。2014年と比較すると、財政赤字は0.3%（2億8200万ユーロ）増加し、政府債務は1%減少した。税収増にも関わらず、財政目標未達となったのは、特にEU基金事業関連の歳出とその他の政府投資の増加による大幅な歳出増が主な原因であった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

